令和５年度第１回堺市中区政策会議　会議録

日時：令和５年 10 月１８日　19 時 00 分から 21 時 00 分まで

場所：堺市　中区役所　４階　大会議室

出席者：【構成員】（敬称略）伊藤久美子、今西千晶、太田佳世、金澤正巳、澤本美奈子、竹井進、田重田勝一郎、巽真理子、谷村修、仲氏昌平、中辻さつ子、松居勇、森田裕之、梶原愛未、小西響、堤朋子、溝下知佳、山口睦季（以上 18 人出席）

【事務局】影山誠（区長）、藤川記代（副区長）、宮井良平（中保健福祉総合センター所長）、松尾敏之（子育て支援課長）、植田博一（子育て支援課長補佐）、里見佳洋（子育て支援課子育て給付係長）、高市美月（子育て支援課相談支援係長）、古谷禎人（中保健センター所次長）、坂田順子（中保健センター主幹）、尾﨑真貴子（中保健センター健康推進第一係長）、竹内秀和（企画総務課長）、重谷憲治（企画総務課長補佐）、東克巳（企画総務課主幹）、村上由美（企画総務課総務係長）、川元慎平（企画総務課企画係長）、神楽所千花代（企画総務課副主査）

１　開会

○司会（東）会議の開催に先立ちまして、配付資料の確認をお願いします。

議事次第の下に配付資料一覧を記載しています。

足りない資料がないかご確認をお願いできますか。

資料はお揃いでしょうか。

この会議は公開で実施します。事務局において、Twitter への掲載等のため、写真撮影や録音を行っていますので、ご了承いただきますようお願いします。

それでは、ただいまから、令和５年度第１回、堺市中区政策会議を開催させていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます中区役所企画総務課の東と申します。

どうぞよろしくお願いします。

それでは次第に従いまして、順に進めさせていただきます。

まず開会にあたりまして、中区長の影山よりご挨拶を申し上げます。

２　中区長挨拶

○中区長（影山）皆さんこんばんは。

本日はお忙しい中、令和５年度第１回堺市中区政策会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

中区政策会議も令和 3 年度からスタートいたしまして、今年度から 2 期目のスタートとなります。第 1 期より中区政策会議にご参加していただいている構成員の皆様と、新たに構成員としてご参加していただきました皆様から様々なご意見やご提案をいただきまして、特色ある区政運営に活かしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第 1 期におきましては、コロナ禍における感染予防に関すること、また現在中区で進めております水賀池公園整備に関することや防犯対策による体感治安の向上に関することなど、中区の重点施策に関する様々なテーマに多様な視点から様々なご意見やご提案をいただき、区政運営に反映させていただきました。

本当にありがとうございます。

第 2 期目のスタートといたしましては、現在国を挙げて、重点施策として取り組んでおります子育て施策に関するテーマを設定させていただきました。

誰もが安心して子育てができる中区をめざしてという方針のもと、子育て世代が安心安全に子育て出来る環境整備を進めてまいりたいと考えております。

子育て世代の孤立化防止などについて、本日はご意見やご提案をいただいてまいりたいと考えております。

区政策会議をより実りあるものとするために、皆様からいただいたご意見やご提案を施策に反映し、区民から信頼される実効性のある区行政の推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆さんの活発な意見交換をよろしくお願い致します。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

３　構成員紹介

○司会（東）次に、今回は第 2 期最初の区政策会議の開催となりますので、構成員の皆様をご紹介させていただきます。

本来ならば、お 1 人ずつ自己紹介をしていただきたいのですが、本会議の趣旨である、構成員の皆様からのご提案や意見交換の方に時間を多く割きたいと考え、恐れ入りますが、お名前を呼ばれた方につきましては、ご起立をお願いしたいと思います。

ご理解ご協力をお願いいたします。

それでは、ご着席いただいております順番にご紹介させていただきます。

大阪公立大学大学院情報学研究科教授、森田裕之様。

大阪公立大学女性研究者支援センター副センター長、ダイバーシティ研究環境研究所客員准教授、巽真理子様。

中区自治連合協議会会長、金澤正巳様。

中区民生委員児童委員協議会会長、中辻さつ子様。

中区青少年指導委員会会長、澤本美奈子様。

株式会社パソコンレスキューサービス代表取締役、伊藤久美子様。

子育て支援こころ育みネット代表、太田佳世様。

大阪公立大学ボランティア・市民活動センター職員、松居勇様。

堺市商店連合会幹事、深井プラザ商店会会長、竹井進様。

有限会社美都副部長、社会福祉法人稲穂会理事、今西千晶様。

特定非営利活動法人志塾フリースクールラシーナ理事長、田重田勝一郎様。

合同会社シェアデイズ代表、谷村修様。

株式会社 PEACE 代表取締役、仲氏昌平様。

　それでは、引き続き学生構成員の皆様をご紹介させていただきます。
　令和４年４月に大阪府立大学と大阪市立大学が統合し、大阪公立大学に名称が変更されましたが、それ以前に、それぞれの大学に入学された学生の方は、卒業されるまで、大阪府立大学生、市立大学生という位置付けのままとお聞きしておりますので、皆様にお配りしている名簿の肩書きはそのように記載させていただいております。
　では、順にお名前をお呼びさせていただきます。

梶原愛未様。

小西響様。

堤朋子様。

溝下知佳様。

山口睦季様。

○司会（東） なお、本日の構成員の出欠についてですが、桂構成員、真栄田構成員、脇田構成員の 3 名におかれましては、所用のため欠席というご連絡をいただいております（後刻、静構成員からも欠席連絡あり）。

続きまして、座長についてですが堺市中区政策会議開催要綱第 5 項第 1 号において、区長の指名により座長を定めると規定されております。

第 2 期の会議開催にあたり、事前に区長より森田構成員を座長に指名いたしまして了承をいただいております。

また、同じく座長不在時に職務を行う職務代理者については、同要綱第 5 項第 3 号において座長の指名により定めると規定されており、事前に森田座長より静構成員をご指名いただき了承をいただいております。

お二方とも第 1 期に引き続き、快く座長、職務代理者をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの会議につきましては、森田座長に進行をお願いしたいと思います。

では、森田座長よろしくお願いします。

４　議事

○森田座長　皆様改めまして、座長をさせていただきます、大阪公立大学の森田裕之でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って進めていきたいと思います。次第 4、議事「誰もが安心して子育てができる中区をめざして」でございます。

まずは今回の議事の設定理由についてご説明をお願いいたします。

○松尾課長　子育て支援課の松尾と申します。今回の議事の設定理由についてご説明させていただきます。

ご存じのとおり国では、本年 4 月にこども家庭庁を設置し、法律におきましてもこども基本法を施行いたしました。

また６月にこども家庭庁は「こども未来戦略方針」を発表いたしました。この方針では、「社会全体の構造・意識を変える」「全てのこども・子育て世帯を切れ目なく支援する」等の理念が掲げられております。

本市では子育て世代の定住・流入促進を重点政策とし、中区におきましても子育て世代を地域全体で支援する環境整備を推進することを中区地域計画で掲げております。

そこで今回、区政策会議では子育て施策を取り上げ「誰もが安心して子育てができる中区をめざして」を議事とさせていただきました。そして、大きく二つにテーマを分けてご議論をお願いしたいと思います。

一つ目のテーマは「子育て世帯にとって、より利便性の高い区役所をめざして」です。

子育て支援課には、子育てに関する様々な相談で子どもと一緒に多くの方がお見えになられます。そういった中で保護者や子どもにとって優しく、また快適に手続きやご相談ができるようにするためにはＩＣＴ

の活用を含め、どのような環境整備が必要かご意見賜りたいと存じます。
　二つ目のテーマは「子育て世帯の孤立化防止のための子育て相談の周知」です。
　子育て支援課では、子育て世帯の孤立を防ぐため交流会など事業を実施しています。
　しかしながら、「子育て支援課が何をしているところか知らない」「子育てについてどこに相談したら良いかわからない」という声があります。
　また、保護者の気持ちがしんどくなってからの相談や、子育ての不安や孤立感から、児童虐待に繋がってしまうこともあると考えています。ちょっとしんどい時に相談できる所の周知が行き届くことで、中区で安心、安定した気持ちで子育てをしていただけるよう、どんな形で周知すれば、子育て相談の有用性が必要な保護者に届くのか、またどんなテーマで子育て講座等をすれば、保護者同士や保護者と子育て支援者の関係が結びつくか、ご意見賜りたく存じます。
　本日はよろしくお願いいたします。
　議事の設定理由については以上です。

○森田座長　ありがとうございます。
　ただいま事務局から議事の設定理由についてご説明いただきました。
　それでは引き続きまして、9 月 28 日に開催されました“学生部会”について事務局より開催の経緯を報告していただきたいと思います。よろしくお願いします。

○司会（東）中区では、昨年度、第 2 回目の会議より学生構成員の皆様の会議案件への理解を深め、会議当日の意見提出の助けとするために、学生構成員だけで先行して、意見交換等を行う学生部会を開催しております。
　今回は、9 月 28 日に実施し、8 名中 4 名の学生構成員の皆様が参加してくださいました。
　実際に区役所の窓口や庁舎内を見学した後、資料についての説明を受け、事務局との質疑応答や意見交換を行いました。
　学生部会についての説明は以上となります。

○森田座長　ありがとうございます。
　では続きまして、学生部会に参加いただいた学生構成員の 1 人である山口さんに意見交換した内容について報告いただきたいと思います。山口さんよろしくお願いします。

○山口構成員　ただいまご紹介に与りました大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類の山口睦季と申します。
　先日開催されました学生部会において、参加学生で話し合った内容について順に報告させていただきます。資料 3『令和 5 年度第 1 回中区政策会議学生部会報告』をお手元にご用意ください。
　まず、一つ目のテーマ「子育て世帯にとって、ICT の活用も含め、より快適にご用が済ませる区役所のために、どのような環境整備が必要か」については、実際に市民の方が利用されている状況や施設内を、

事務局の方の案内で見せていただいた上で、話し合いを行いました。

まずは区役所のトイレについてです。男女用のトイレは最近工事をされたということで非常に綺麗なので、設備などを備え付けるために改修工事を行うのであれば、誰でもトイレについて整備を行う方が効率的なのではないかという意見が出ました。

また、あれば良い設備としては、双子や年子のお子さんを育てていらっしゃる方のためにベビーチェアを 2 つ設置する、子育てをしているとどうしても荷物が多くなってしまうので、そういった荷物を置く荷物置き場を設置するなどの意見が出されました。加えておむつ用ゴミ箱を設置して、赤ちゃんのおむつを区役所側で回収していただけるのもありがたいと思うという意見もあり、回収が難しいようであればおむつ持ち帰り用のビニール袋を配布してくれるだけでも負担が減るのではないかといった代案も出てきました。

施設の整備についてはどうしても、お金やスペースの問題が生じるため、職員の方にご負担がかかるかもしれませんが、少しの間でも子どもを見ておいてくれるサービスなどがあれば、保護者の方はその間に用事がしやすいのではないかといった意見もありました。

次に待合スペースについての話し合いに移りたいと思います。妊婦さんや高齢者の方向けの優先席が一定数あっても良いのではといった意見や、待ち時間が長くなるようであれば地下 1 階のうきうきルームでお子さんと遊びながら順番を待てるようにする、絵本やおもちゃの貸し出しを行うなどの意見が出てきました。加えて地元が堺市ではない学生さんならではの意見も出されました。その内容は、今でもたくさんの子育て関連施設などに関するチラシを置いてくれているのですが、大学に入学してから堺市に来て土地勘もなく、各施設の場所がどのあたりにあるのか全くわかりません。そのため、子育て関連施設の場所が掲載された大きい地図を作成してそれを見れば自宅付近に何があるということがすぐにわかるようになっていれば、それぞれの方が身近な施設に行きやすくなるのではないかという内容でした。

続いて ICT の活用については、先ほどの地下 1 階のうきうきルームで遊びながら順番を待つときにも活用できると思われますが、QR コードで窓口の呼び出し状況が把握できるようにするシステムや、そもそも窓口に来庁できる時間を予約できるようなシステムがあれば、待ち時間自体を減らすことができるのではないかといった意見も出ました。

一つ目のテーマについては以上です。

続いて二つ目のテーマの質問 1、「どのように周知すれば、子育て相談の有用性が必要な保護者に届くと考えますか」について移ります。

「相談」という言葉自体を負担に感じる保護者さんもおられると考えて、「相談できます！」いうことばかりを前面に押し出していくのではなく、繋がろうという形で事前に相談できる関係を構築していくのが良いのではないかという意見がありました。他には、「こんなことで相談してもいいのかな」と悩んでいる保護者さんもおられるのではないかというふうに考えられることから、具体的な相談内容の例示や、相談して気持ちが楽になったというような口コミのようなものを、保護者さんに伝えていくことで相談しやすくなるのではという意見がありました。

また堺市では子育て応援アプリなどもリリースされていますが、特に保護者は若い世代の方も多いと思うので引き続きアプリや LINE などを使って情報発信を図っていくのが良いという意見もありました。

最後に二つ目のテーマの質問 2、「保護者同士や子育て支援者を結びつけるきっかけになる子育て講

座のテーマ」についてです。事務局から、子育て講座に来られている方にアンケートをとってどんなテーマがいいか聞いているとお聞きしましたが、子育て相談に来ることができていない方をターゲットにテーマを設定して、講座に来ていただくことが重要だという意見がありました。

また、あまり広い範囲の方が当てはまるテーマで多くの人を対象としようとするよりも、ある程度狭い範囲にテーマを絞る方がそれぞれの方が自分ごととして自分に結びつけやすくて、参加のきっかけになるのではないかという意見も出されました。具体的には「兄弟姉妹を持つ保護者」「思春期の子育て」「子どもの食事」「お子さんのスマホ利用について」などの例が挙げられました。

学生部会の報告は以上になります。

○森田座長　山口さんどうもありがとうございました。

ただいま資料 3 をご覧いただいていると思いますが、学生の皆さんが各提案につきましてそれぞれ意見をまとめていただいております。

それから資料 2 の方をご覧いただきますと、皆様に事前にお伺いしました意見についても事務局の方でまとめていただいております。

これから学生部会の意見および皆様の意見を交えましてそれらもご覧いただきながら、新たな意見や、ここに書いてあるのと同じ意見についてディスカッションしていただいてもいいですし、その時思いつかなかったけれども、他の人の意見を聞いたら思いついたということもあると思いますのでそれらも踏まえまして、いろいろ意見を賜っていきたいと思います。

提案といいますか、大きくクエスチョンが Q1 と Q2 の二つにわかれておりますので、主としてまず時間を区切りながらそれぞれの質問に対する意見をお伺いしていった方がよろしいかと思いますので、まずは Q1 ですね、子育て世代にとって ICT の活用を含め、より快適にご用が済ませる区役所のために、どんな環境整備が必要かというような質問に対して主としてまずご意見を賜りたいと思います。学生さんの意見をまとめていただいたものを見ますと、「トイレ」「待合スペース」「ICT の活用」という三つが出てくるかと思います。それぞれのポイントでもいいですし、これ以外のポイントでも結構ですので、今の学生さんのご意見も見ていきながら、皆さんからご意見を伺っていきたいと思います。

もちろん学生の皆さんからのご意見でも結構です。

どなたかご発言はございますか。

なければ、とりあえずこちらでまた最初あてながらいきたいと思いますが・・・。

はい、それでは皆さん意見をたくさん書いていただいておりますので、まずはランダムに近い形で当てていこうと思うんですけれども、以前からもご意見をいただいております伊藤さんからまずお話しいただけますでしょうか。

○伊藤構成員　質問に対する私の答えは、事務局の方に送らせていただいているのですが、学生さんの見る視点は一番リアルに近いというか、よく見ておられますし、ほぼ私達が考えていることを全て言っていただいたことになるのかなと思います。それに対して、ICT の活用のところも含めて書いてありますので、私も専門家の視点からすると、この ICT については、今の子育て世代、大体 20 代から 30 代前半後半のと

ころまでが子育て世代だと思いますが、その方々は SNS が当たり前に日常での活用と言いますか、日々使われていますし、概ね浸透しているようです。

また、携帯の普及に伴って、そういったアプリの導入も進んでいると思いますのでそういった LINE 公式アカウント等の部分を用いて堺市の特に中区の LINE 公式アカウントというような公式ページを作ることによって 1 対 1、また 1 対多というところで情報の発信もしくは情報を受け取ることができる窓口を、そういったツールを使って設けてもらうことで、「ここに来なければ、何か話ができない」っていうのではなく、来なくても訴えることができる、こんなことしてほしいとか、こういったことで困っている、という声を拾うといった昔でいう投書箱のようなもの、そういう活用をしてもらえたらいいかなと思います。

○森田座長 はいありがとうございます。

適切なご意見と思います。

ご相談される方もいろいろな方々がおられるため、今おっしゃったようにオンラインでした方がいいという方もいらっしゃれば、対面のコミュニケーションを求めるというか、そういうのを提供した方がいいという方もいらっしゃってそのあたりの見極めは、なかなか難しいと思いますが、両方対応可能にしておいて適宜適切な対応ができるというふうにしておければよいのかなと思いました。

ありがとうございます。

先ほどオンラインの話が出ましたので、新しく委員に加わっていただいた田重田さんはどう思いますか？

○田重田構成員 田重田です。

そうですね。オンラインでの相談が可能というふうに伺っていましたが、そのオンラインで相談できるのが、Webex っていう誰も知らない Web ツールになっていて、使いづらいのではないかと思っています。一般的に普及しているのは LINE やオンライン会議システムであれば Zoom が一般的なのかなと思うので、セキュリティ的に厳しいみたいなお話もあるようですけれども、その辺をクリアしていただければと思います。普段使っているツールじゃないと、そこに踏み込めないっていう人もたくさんいると思いますので、よく使われているツールを選択できるようにしていただきたいなというのが一つと、オンラインでも直接しゃべって相談すると言うのがいいという人もいれば、非同期にテキストベースで相談したいという人、特に夜の時間帯とか、そういう人が多いんじゃないかなというふうに想像ができるので、オンラインの部分で言うと、チャットベースで何か相談できるような仕組みがあればいいなというふうに思いました。あとは、学生さんのところでも出てきていましたけども、子どもを連れてきている中では、待つのが難しかったりするのかなと思うので、病院とか、銀行とかでも導入されているような待合システムで、事前予約や番号札を取っておいて後から呼び出してくれるようなシステムとかがあると、より気軽に相談に行こうかなっていうふうに、ハードルが下がるのかなと思いました。

以上です。

○森田座長 ありがとうございます。

今お二方ぐらいご意見をお伺いしましたが、何かそれに対してご意見よろしいでしょうか。

おっしゃった内容で確かにテキストの方が時間を気にせず相談できるみたいなご指摘の通りだと思います

し、一番ハードルが低いかなという気もするので、そういう手段も必要だと思いました。
　他にいかがでしょうか。

○中辻構成員　民生委員の中辻でございます。よろしくお願いします。
　子育て支援課が 3 階にございますけども、私も時々行かせていただいて見せていただいていますが、予算の関係もあるんですけども、子どもさんを連れてきて相談するにはちょっと手狭かなといつも思っております。もうちょっとゆとりのある場所があってほしいなと。オンラインですとか、LINE とか今の若い方はそういう方面で活用できるのは本当に結構な話ですけども、ご相談にお見えになる方は、いろいろな問題を持ってやっとここまでたどり着いたという方もおいでです。やっぱり対面式で自分の思いを子育て支援課の方にお話されて、一つでも解決できたらなと思っている方も多いと思うんです。
　その他に、もう少し通路にゆとりが欲しいです。それからトイレも子どもさんを連れてお見えになったらちょっと手狭です。それから、誰でもトイレにベビーベッドを置いていただけたらありがたいかなと思います。
　日々、本当にいろんな方が、民生委員の私のところに相談に来られます。相談にこられる方は本当にまだいいかなと思いますが、来られなくて悶々とされている方、そういう方を 1 人でも救いたいなと日々、思っております。

○森田座長　はい、ありがとうございます。
　おっしゃるように事務局との打ち合わせの時も、今おっしゃったのと全く同じようなことのお話をしましたが、いろんな方がいらっしゃって、それぞれに深刻度合いもかなりレベルが違うのかなと思っております。皆さんはどういう方を想定して、ご意見をいただいているかもいろいろだと思いますが、それはそれで別にいいんですけども、例えばそういう深刻度合いはなくて、いろんな情報収集をしたいって方もいらっしゃれば、そうではなくてかなり深刻な状況になってらっしゃって本当にもう来るのも大変と、来るのも大変だけどオンラインで聞くのも大変であるとか、精神的になかなか難しいという方もいらっしゃるのかなと思います。その辺はきちんと交通整理をして対応を考えないといけないなっていうのは一つのポイントだと思います。
　また、それを具体的にどうするかっていうのは、すぐには難しい話もあるので、そういう使い分けといいますか、いろんなチャンネルを用意しつつ、対応の方法や仕方のバリエーションを用意しておくというのが良いのかなという気がしました。
　あと先ほどから学生さんの方でも出ておりましたトイレとか待合スペースについても全くおっしゃるとおりだろうと思います。
　あとはやっぱりセキュリティの問題は、お子さんなのでとても皆さん気にかけられていると思うので、できればその階をまたぐようなのは、実はよくないのかなと思います。というのはその待合いは同じ階で待てるというのがいいのかなと、もちろん子どもさんがうるさいということもあるのかもしれませんけれども、そのあたりも解決しつつ、特に安心しながらご相談ができるような環境が必要だということなのかなと思います。当然予算も必要なのかもしれませんけれども、そういう対応も考えるべきではというような気もいたしました。
　今オンラインから実際の対面的なお話、それからハードウェア的なお話が出たと思うので、その点についてご意見がある方がいらっしゃいましたら、ご発言いかがでしょうか。

○太田構成員　すいません太田です。よろしくお願いします。

私は中区で、未就学児童対象の親子さん連れで来ていただく子育てひろばの運営と、地域で子ども食堂をしています。

また、ここの報告のところにあります地下１階のうきうきルームの方も少しスタッフとして関わらせてもらっています。子育てひろばに親子さんが来られたときに、やはり区役所に用事で来たんだけれども、本当は親子で利用していただくひろばですけども、子どもだけちょっと預かってもらえないかっていう方が結構いらっしゃるんです。

でも子育てひろばは親子さんに入っていただくところなので、保育・託児っていう形はやってないですとお答えしますけれども、やはり求める方が、10 分 20 分ちょっとの用事を済ますときに少し子どもをどこか安心できるところで見てもらえたらなっていうのをすごく感じるので、例えば、3 階に子育て支援課があって、親子で地下に行ってとか、またそろそろ時間だなと思って 3 階に戻ってとかで今度授乳があるとかトイレがあるってなると、区役所の中を行ったり来たりっていうのは、かなり大変かなと思います。

そのため、同じフロアに皆さんが意見を出してくれていました待合スペースとか、キッズコーナーや、あと、職員さんもなかなか大変かなと思うのですけど、子どもをサポートしてくれる職員の人がいたら、帰ってきたお母さんと、ちょっと言葉を交わして「お母さん、こういう情報どうですか」ってその場でお渡しできると理想だなと思います。

○森田座長　おっしゃるとおりかなというふうに思います。

職員が見る仕組みは、学生さんもおっしゃってらっしゃるし、あれば多分便利だろうなとは思いますが、これはなかなか実現するとなると、結構いろいろ実現レベルにおける問題があるのかなと思っていますし、何かいいアイディアがあるといいですけどね。どんなものでしょう。何かいいアイディアをご存じだったら、巽さんいかがでしょう。

○巽構成員　ご指名いただきました巽です。

大学で研究者支援の仕事をしていまして、子育て支援も兼ねてやっています。どのぐらい見てなくてはいけないのかっていう問題もあるのですけど、まず本当に書類を書く間だけ見るとかであれば、少しの間職員さんにみてもらうのは可能かなとは思います。あとはせっかく学生さんが来ているので、学生さんも忙しいのもすごくよくわかっていますが、前に私も子育てひろばをＮＰＯで運営した時期があって、そのときに近くの大学生さんがボランティアで来てくれていたのですけども、保育士を目指す学生さんとかは、今少子化で近所で子どもに触れ合う機会がなかなかないので、ここに来たら子ども触り放題だったよと話してくれる学生さんたちもいたりしたので、そういったちょっと短時間でも見れるときだけでも来てもらうとか、そういった仕組みを作るっていうのも一つかなと思います。

続けて違うお話をしたいのですが、私、意見をちょっと書き忘れたことがあって、一つ確認なんですけども、子育て支援課の窓口の風景のところにあるトイレの写真があるのですが、3 階の男性トイレには、おむつ替えスペースはあるのでしょうか。

○松尾課長　3 階の男性トイレの方には、おむつ替えのスペースはありませんが、女性トイレの方にはベビーベッドを置かせていただいております。

○巽構成員　私、実は父親の子育てとジェンダーが専門なのでこういったところがすごく気になるのですが、やはり女性のところだけになると女性が子育てするもので、男性はしなくてもいいというメッセージになってしまいますので、ここは是非とも、スペースの問題もあるとは思いますけれども、男性トイレにもオムツ替えスペースをつけていただけるといいかなと思います。

もう一つは、今の共働き世帯が専業主婦世帯の 3 倍近くになっていまして、正直平日のお昼に区役所に来るっていうのはなかなかハードルが、子育て世帯でなくても高いような形になっているので、先ほど ICT の活用の話でもありましたけれども、できるだけ平日昼間でない時間、それこそ夜間、休日とかに、窓口を開けるのは難しいかもしれないですけれども、マイナンバーカードとかも普及が徐々に進んでいるところもありますし、何かそういったのと、先ほど言われていた LINE とかの組合せとかで窓口に来なくても、その仕組みで手続きが完結できればいいかなと思っています。特に PC を持っていない方でも、スマホは絶対持ってらっしゃるそうなので、スマホのアプリみたいな形で完結できるのがいいのではないかと思います。

以上です。

○森田座長　はい、ありがとうございます。

私よりも遥かに専門が近い先生なので心強いご意見をいただけました。

非常に参考になる点がいろいろありました。特に学生さんのボランティア活用はとても魅力的なことなので、うちの大学の学生さんにもそういうボランティアは結構ありそうですかね。

それだったら松居さんにお聞きした方がいいですか。どうでしょうか

○松居構成員　はい、ご指名いただきました松居です。

今の話も関連するので、後で言おうかなと思っていたところです。私も今回意見をまとめる中で、特にこの ICT の活用というところも含めると、本当に区役所に来ないといけない手続きって何だろうなというふうなことを考えるきっかけにもなりました。

今までの意見もずいぶん出ているかと思うんですけども、例えば実際に子育て世帯となってくると、要は時間外が大事だなと思いながらも、かといって夜に来るというのも結局幼い子どもがいると難しいのかなと思うと、事前意見シートにも書いたんですが、どうしても来庁者の手続きが休日にできればいいのかなというところと、あとは私も未就学の子どもを今育てているところなんですけども、やはりこういった手続きとかに来ないといけないとなったときに、基本的に子どもからすると、楽しい時間というのはないだろうと思うので子ども中心に考えた場合、子ども自身が何か楽しく過ごせる時間があるうえで、その間に手続きができるというところがあれば理想的だなというふうなことを考えました。

そして、実際に一昨年ぐらいですかね、堺市でもやっていた里親の相談会に参加したことがあるのですが、その時に子ども自身が参加できるプログラムがあって時間帯によっては子どもたちだけで一緒に過ごす時間

があってその間にじっくり相談することができるという体験をしたことがあって、それがすごく快適といいますか、どうしてもこういった窓口で喋れることもあるのですが、子どもが待っているのはわかっているので、あまり長居しようという気持ちにはなかなかならないということからすると、良い意味で子どものことを気にかけなくても、自分が思うだけ喋れるような時間を作るためには、そういった託児まで可能であればと書いたのですが、それが日常的には難しい気がしたのでその一時的なイベントでも構わないので、そういったことができたらいいなということを考えました。

そして、実際にそういった里親関係になってくるのですけども、そういったイベントで、要は親御さんがじっくり喋れるように、託児のボランティアに来ていただけませんかという話を実際にいただいたこともあり学生に対してのそういうニーズもあるのだろうなということを実感しています。

以上です、ありがとうございます。

○森田座長　ボランティアとかも結構いろいろ関わってらっしゃると思いますが、例えば先ほど巽先生がおっしゃったように、託児ではないですけど、子どもをちょっと見とくみたいなボランティアってありえそうな感じがしますか？

○松居構成員　そこも先方のいわゆる条件といいますか、それこそ本学の中百舌鳥キャンパスでも保育士の養成課程があって、そこで勉強している学生さんっていうふうな指定があれば、専門課程の先生に相談することができると思いますし、もう誰でもいいですよっていうふうな話であれば、そういったこともできると思います。

先ほども一つ言いましたが、他にも一例として、いわゆる社会人のアマチュアの吹奏楽団が堺市にもあって、そこには子育て世帯の方も多くいらっしゃって、要は練習会をやっているときに子どもを誰か見てくれないかなと。演奏している同じ空間で、託児所といいますか、目の届くところで一緒に遊んでくれたら、経験がなくても大丈夫ですというような依頼が来ていることもあるので、子どもの面倒見ていてほしいというふうなボランティアを見つけるのは、今の一例ですがいくつかあるかなと思います。

○森田座長　ありがとうございます。

とりあえず可能性はありそうということで、これも実現するとなるといろいろ解決しなければならない問題はあるかもしれませんが、可能性があるのだったらちょっと考えていただけたらと思います。

もう一つ、今のお話の続きで言うと例えば谷村さんはいかがでしょうか。

○谷村構成員　私の方はどちらかというと対面の方での意見をちょっと書かせていただいたのですが、先ほど学生さんの方でも出ていました ICT の活用のところで言うと、窓口に来られるときに、予約ができれば待ち時間の解消ができて、そういったお子さん連れの方の負担は減るのかなというところと、あと先ほど中辻さんからありましたスペースがちょっと手狭というところがあるようなので、例えば、それを解消するにあたって、カウンターでお子様の座る椅子や、おもちゃ、絵本、例えばスペース確保が難しいかもしれませんが、カウンターから見える範囲にキッズスペースを設けるとか、先ほどお話が出ていますボランティアさんですね。お子さん

を預けるというボランティアさんだとちょっと難しいと思うので、一緒に見守ってもらう、人の目を増やすという感じのボランティアさんであれば、どうかなあというふうに思いました。あとは授乳室です。例えば mamaro という授乳室を簡易的に作れるものがあるようなのですが、こういったものを設置して、授乳室があるからそこに寄ってみようという気持ちになり利便性が高まるのかなと思います。

以上です。

○森田座長　ありがとうございます。

やっぱり同じフロアでも、完全におまかせするとなると親の立場からするとちょっと不安な人もいるかも知れません。私も子どもを育てたときはやっぱり、目の届く範囲で見ていただいていると安心するという気はしました。予算の問題があるので何でも出来るっていうわけじゃないと思うのですが、最後におっしゃった授乳のスペースの話もそうですし、そういうボランティアさんを交えて、お子さんを見守っていただきながら相談できるようなトータルコーディネートといいますか、それぞれがどうのこうのって言うのではなくて、全体をできるような形にすると非常に効果があるのかなというのを今ご意見をいただいていて思いました。

あとさっきの学生さんの話にちょっと戻るのですが、オムツって結構重たいんですよね。子どもの大きさによっても違うし、回数も違うんですけど、そんなものと思われるかもしれませんが、オムツを持って帰るとなると結構大変です。特にお子さんをちっちゃい子 2 人ぐらいとか 3 人とかもし連れてこられていたら結構大変な話なのかなと思います。ちょっとしたことですけど、これも人の目がないとそこに誰が何を捨てるかわからないという、いろいろ問題もあるのかもしれませんけども、その辺りをちょっと踏まえながらも、利便性の高い方法を検討していただければ。それからついでに言うなら、そんなことあんまりないのかもしれませんが、たまたまオムツが無くなってしまったということもあると思うので、そうすると子どもが非常にぐずってしまってという可能性もあると思いますので、ちょっとした捨てるところと緊急時の提供用みたいなものを用意していただければと思います。

いろいろ意見はいただいておりますが、何か今までの意見を踏まえ、対面の話でも、ハードウェアの話でも結構ですけども、何か付け加えるご意見はございますか。

○太田構成員　太田です。

すいません今の言葉で思い出しました。

おむつの自動販売機を置いていただきたいです。

○森田座長　なるほど。

○太田構成員　防災のときにも役に立ちますし、はい、ぜひお願いします。

○森田座長　私はあまり知らないのですが、そうゆうのは結構あるのですか。

○太田構成員　結構あります。

○森田座長　1 枚とか 5 枚とかの単位で買えるような。

○太田構成員　はい。そうです。

○森田座長　そうですか。それはいいですね。

提供するよりも遥かにハードル低いですし、どこでやるのがいいのかどういうやり方でやるのがいいのかわかりませんけど、防災のときっておっしゃいましたけどそれも結構重要なポイントかなと思いますので、よろしいかと思います。

因みに、せっかくですから学生さんが最初に言っていただいて皆さんからいろいろ意見があったので、今皆さんのご意見を伺って学生さんから何か意見はないでしょうか。

○小西構成員　小西です。よろしくお願いします。

学生部会の方で、B1 階にあるうきうきルームを見させていただいたのですけど、もしそこに職員の方を派遣できるなら、そちらの方でお子さんを見ながら手続きとかそういったものができたら、非常にゆっくりした時間を過ごしながら、職員の方と話が出来る、また、人が少ないのであれば落ち着いて、時間を気にせずに、手続き等をできるのではないかなと思いました。

以上です。

○森田座長　そうですね。

やり方はいろいろあるのですが、今のやり方、場所がどうしようもないのだったらそういう方法も一つですね。

他、学生さんいかがですか。

それでは梶原さんどうですか。

○梶原構成員　はい、梶原です。学生部会で見せていただいたんですけれども、区役所の中で使える授乳室というのがうきうきルームの中のカーテンの仕切りをしたところだというふうにお伺いしていたので、谷村さんがおっしゃっていた授乳室を別に設置することが必要だと思いました。保健センターの方にも授乳室があるというのもホームページで見ましたが、そちらは防犯上の関係で、いつでもだれでも使えるわけでないという問題点があるとおっしゃっていたので、できれば設置していただけるといいと思いました。

○森田座長　はいありがとうございます。

そうなんですよね。場所がどこかにあればいいっていうわけじゃなくて、場所の配置といいますか、それも実は問題で、そういう意味からもできればトータルで何か設計できるようなところが本当はあると良いんでしょうけどというところだと思います。

他に何かご意見はよろしいですか。

もし特になければ次の話題に。

最後に 1 点だけ付け加えさせていただきます。ICT の活用のところの窓口の予約システムは今、整備をご検討いただいているということをお伺いしていて、それは非常に素晴らしいことだと思うんですが、皆さんもいろいろ例えばお医者さんとかで予約システムってあるんだけど、10 時に予約して 10 時行くと 10 時には受け付けてもらえないみたいなのがあって、仕組みをいわゆるシステムを作るってそれはそれで重要なんですけど、実は運用っていうのも結構大変重要なポイントでして、そういうところもちゃんと連動させて、要はお待たせすることがないような何か仕組みが構築できればなというふうに考えました。

それではこの Q1 の質問については以上でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは時間もございますので次の質問に移りたいと思います。

次の Q2 の方は二つにわかれておりますので、まず 1 番目の Q2－1 周知の方ですね、どのように周知すれば、子育て相談の有用性が必要な保護者に届くと考えますか、という周知経路に主を置いた、2 番目の方もちょっと混ざってしまうかもしれませんけれども、基本的にはその周知の方法についてのところの意見をまずはいただきたいと思います。もう 1 回学生さんのご意見を振り返りますと、真ん中のあたりに書いてあるようにですね、繋がろうという形を重視すべきじゃないかとか、アプリやメール、SNS なんかの活用、それから Q&A の例示ですね、あとは口コミとかですかね、そういうものを活用すべきじゃないかというご意見です。そのあたりについて、皆様のご意見はいかがでございましょうか。

○巽構成員　巽です。

すいません、この質問をいただいたときにちょっとよくわからなかったので、ちょっと教えていただきたいんですけども、子育て相談とか子育て講座に来る、来て欲しいと思っている人たちの、例えばお子様の年齢層とかいうのが、一言で子育て相談って言っても未就学児なのか小学生ぐらいまで入れるのか、もう 18 歳未満まで含むのかによって、やはりどういった周知の仕方をするかとか、子育て講座のテーマをどこまでするかとかが違ってくると思うので、特に今回、この会議の中で私達から意見を聞きたい中区役所さんが考えている子育て相談の対象者っていうのがどういう方なのか教えていただきたいです。

○森田座長　では事務局から説明をお願いします。

○高市係長　子育て支援課　相談支援係の高市と申します。

ご質問いただきましてありがとうございます。

確かに児童というのは 0 歳から 18 歳未満までをさしております。今までは、未就学児を中心とした子育て支援事業を行ってきたという経過がございます。

もちろんそこの世帯は、一番お子様が大変なところなので、そこも非常に大事に思っているところなんですけれども、やはり就学されてから子育てについて悩まれる保護者の方もたくさんいらっしゃいます。そちらにおかれまして、どのようにして繋がっていけたらいいのかっていうところを考えているところになります。

○森田座長　それを受けて何か意見はありますか。

○巽構成員　それを受けてだと、そうですね未就学児のときの周知方法と、やっぱり就学してからの周知方法というのはだいぶ変わってくると思います。保育園ですとか幼稚園とかそういったお子さんを預けたり、小学校、中学校、高校とも繋がっていきながらそちらからも相談の案内をするなど、何か子育て相談って言われるとやはり乳幼児のときだけなのかなと利用する場合思いがちで、18 歳まで広く見てくれるっていうイメージがなかなか湧きにくいので、そういった対象者になるお子さんがいる場所を通じて周知するというのも一つかなと、お話を伺って思いました。

○森田座長　はい、ありがとうございます。

今の巽構成員のご意見をお伺いして、ご意見ある方いらっしゃいますか。

すぐにはいらっしゃらないようなので、それではまずは私から。巽構成員が最初におっしゃられたように年齢の問題とかもありますが、私はどちらかというとやはり先ほど少し申し上げましたように、相談レベルの深刻さみたいなものとか、ご自分で来られる方と、ご自分では来られない方といいますか自分からアクションできない方という、大きく分けるとその二つに分かれるのかなと思っております。周知経路っていうものを基本的にはご自分で情報収集される方を対象に考えると、多分これから皆さんにご発言いただくような形のやり方がいろいろありますが、ご自分から収集しようと思わないというか自分からアクションできない方を対象とすると、これは多分そういう一般的な情報ツールはなかなか難しいのかなというふうに思っております。それをどうしたらいいのかってなかなかいい答えというのは簡単には見つからないのですけど、私はどちらかというとデータ分析が専門なものですから、一般的なマーケティングとかの状況を考えると、マーケティングだとお客さんの相手なわけですけども、そういう方たちへの接触の機会というのはとても重要なんですね。

例えば、乳幼児は今生まれてからの間もない状態を想定しますといろんな健診の機会ですとかそういう接触をする機会があると思うんです。1 回 1 回の機会では来た来ないっていうのはそれはご都合もあるので、いろいろあると思うんですけど、何回も連続してこないとかですね、そういう来ないパターンみたいなのはとても重要な信号なので、そういう記録をですね、ちゃんとデータ化して、そのデータから危険信号を察知するような、そんな難しいことはしなくてもいいと思います。要するに連続して何回来ないとか、何回中何回来ないみたいなそんな簡単な方法でいいと思うのですけども、何かそういう形でこちらから会って、プッシュしないといけないような人というのは、ちょっと識別しなければという気がしております。

私からは以上です。

他にご意見がございませんでしたら、こちらから少しお聞きしたいと思います。

新しいメンバーの竹井構成員どうでしょうか。

○竹井構成員　竹井です。

よろしくお願いいたします。

私はですね深井プラザでイベントや、子育て応援という形でうきうきルームにも絵本とかおもちゃとかの寄贈をしています。

また、小さいお子さんのお役に立つように、イベントを開催しているんですが、先ほど中辻さんも発言され

ていた SNS とか、そういう広報とかの活用以外にも、アナログ的なんですが、子どもまつりのイベント等で集まっていただいた子育て世代の方に、例えば相談情報が入った QR コードをすぐその場で読み込んでもらって、読み込んだ方には何かプレゼントをするような形で関心を持っていただくようなツールというか、方法もいいのではないかと思い、させていただいています。

今回、深井プラザでイベントを開催するのですけど、日曜日に子どもさんが喜びそうなガチャガチャで、来ていただいた方に、例えばアプリで読み取ってもらうようなやり方をやっていこうと思っています。SNS とか広報でもいいですけど、そういうアナログ的な、例えば、1 対 1 で来てもらった方とご相談できるような対面での形もいいんじゃないかと思います。

○森田座長　はいありがとうございます。

オフライン、オンライン両方ともとても重要かなと思っております。特にお子さんは、楽しそうなイベントがやっているとなると、誘因力はかなりあります。それだけで全ての子どもに対応はできないと思うんですが、一緒に活用するということが重要なポイントですかね。そういう場合は、中区役所さんと一緒にコラボレーションをする等、そんな話になるんですかね。具体的なやり方わからないですけど、例えばオフラインの活用というのもお考えいただきましたらいいのではないでしょうか。

何かそれについてご意見はございますか。

○田重田構成員　田重田です。

すいません、少し今のポイントからずれるかもしれないですけども、子育て相談の周知っていうのを見て、イベントの周知のことを思っていたんですけど、実はそうじゃなくて相談できるよっていうことに対する周知をしたかったんだなっていうことに今気づいたんですが、そうなったときに、僕の子どもはもうだいぶ大きくなってしまったので相談の必要はないのですけど、「何が相談できるのかっていうのがわからない」や「自分が何か困っているけど、こんなこと相談していいのかな」等どういう相談を聞いてくれるのかっていうのが具体的にわからないんじゃないかなと思います。そのため、「こういうことに困っていませんか」っていう項目みたいなのがいっぱいわかるようなものがあると、自分の困っている内容に当てはまる項目があれば相談してみようという気持ちになると思います。

例えば自分の子どもが不登校だけれども、その不登校の相談ってここで聞いてくれるのかなっていうのはわからないと思うんですよね。本当に困っていて誰でもいいから聞いてほしいと思って来る人だったら相談するかもしれないですけど、そういう相談をしたいけど、相談先じゃないですって断わられたらどうしようって思い、相談に行かないっていう人もいるんじゃないかなと思ったので、受けられる相談のリストみたいなのがあったらいいと思いました。

以上です。

○森田座長　ありがとうございます。

それは学生さんも指摘されていた具体的な内容の例示とか、相談して持ち上がったような口コミみたいなお話とかも結構近いのかな。なかなか相談内容は、口コミに書き込まれるかっていうと、これはちょっと難

しいような気がしますが、内容をそんなに細かく伝えなくても、今おっしゃったようなこういう感じのご相談項目で受けました、みたいなお話とか、そういう受けられる相談の内容をどう書くのがいいのか、逆に書かないと例がないと相談を受けられないのかと思われる可能性もあって、それはそれでまたなかなか難しい問題かと思いますが、例示みたいなのがあれば相談に行きやすくはなると思います。

ありがとうございます。

他に何かご意見はありませんか。

○仲氏構成員　PEACE の仲氏です。

ちょうど中辻構成員と竹井構成員もおっしゃられていたのですが、10 月 22 日に中区区民フェスタがあったり、11 月 5 日に宮園校区でイベントがあったりとかですね、中辻構成員も土師でイベントをしておられると思うのですが、中区で皆さんいろんな形でイベントをされていると思うんです。なので、学生さんもおっしゃられていましたが、そのイベントをとおして自然な形で繋がろうということが一番大事なのかなと。自然な形でイベントに来て自然な形で相談できるってことを知ることが一番大事かなと思います。その中で人と人とが繋がって不登校の子どもさんや、私も障害と介護の事業所をやっているんですが、やっぱり障害の子どもさんを抱えている親御さんもいるので、18 歳までっていうところが障害の子どもさんを抱えた親御さんも対象になるのか、それ以外に医療を必要とする子どもさんを抱えた親御さんもいますので、多様性に対応した相談ができる仕組みをいかに作っていくか、それを自然な形で発信していくのかはすごく大事だなと思うので、イベントを各地でやっているところを把握しながら、自然な形で子育て支援課の役割であったり相談が出来たりというところを周知できれば一番いいのかなと思いました。

以上です。

○森田座長　はいありがとうございました。

その点について言うと、おっしゃるとおり自然が一番いいのですが、その自然が実はなかなか難しいときもあります。それはどういうことかと言うと、昔からお住まいの方は、地域のコミュニティに溶け込みやすいのですが、新たに転入されてこられると、なかなか難しい点もあります。ポジティブな方たちはたくさんこちらからプッシュすると、食いついてくるんですけど、逆にそれにあんまり反応できない人たちもいらっしゃって、なかなかその点は今回の問題だけじゃなくて今まででもそういう問題は出てきていたんですけど、何かその辺りって・・・静構成員が居たら聞きたいのですが、静構成員がいらっしゃらないので、金澤構成員に聞いてもよろしいですか。

何かそういう何だろう、地域コミュニティへの取り込み方みたいなやつが何かこうプラスでございましたら。

○金澤構成員　金澤です。

少し案件からそれるんですけれども、学生さんのまとめられたことや皆さんの意見を事前にまとめていただいている内容については、私も同じ考えです。

私自身思うのは、中区が子育てしやすい地域になるには、情報を受ける側も出す側も頻繁に情報のやりとりが起こるようにしていかなければと思います。もちろん私自身も子どもはおりますが、子どもが小さい

時には、ほとんど仕事ばかりで、子育てにあまり携われてはいないのですが、現在の環境の中では、親御さんが、何をどこに相談に行ったらいいのか、また、資料 1 にも行政に求められる子育て支援、本音あれこれと書いてあるんですが、なかなか子どもがおりながら行政に相談に行くタイミング、時間、子どもを連れて行きにくい事情等いろんな家庭環境があると思うんです。

以前ここでお話をしたかわかりませんが、各家庭に子どもが生まれたら出生届、転居してきたら、転入届を出しに区役所に来られます。その際に、行政の方でどれだけ 0 歳から 18 歳までの対象になる子どもさんの情報を把握して、足を運んでいくかが大事で、それが行政のサービスではないのかなっていうふうに私は思います。

もちろん職員の体制的な問題もあると思います。

しかし、子育てで悩んでいる人が相談に行って担当してもらう、もしくはそれがメールであっても、いろんな形で情報が得られることによって親御さんが安心できれば、それは一つの解決じゃないかな、気が楽になるんじゃないかなと思います。

私の娘の場合は、横浜に住んでいて産育休中ですが、ちょうど孫が 10 ヶ月になります。子どもが生まれて、その世話のため、家から一歩も出られない。周りには具体的に何があるか、その地域で 10 年も過ごしていればわかるのですが、子どもができて、子育てをしていく中で、子どもが熱を出す等の対応をするにしても、生まれ育った地元のことであれば、どこに何があるかは分かりますし、家族からも応援をしてもらえるんだけど、なかなか嫁ぎ先では保健所の場所もわからない。

区役所の場所はわかっても、そこへ行って何を相談すべきなのか、というような悩みを本人は持っています。それはどこの親御さんも、似たようなものではないかなと思うんです。

私は商売をしてる中では得意先管理を全部やってます。得意先からニーズを言われる、そのニーズに対してどう答えるかっていうことは大事だし、その後どう得意先に対して情報を流していくか、提案をしていくかというのが、ビジネスのあり方だと思っています。もちろん、行政がこのやり方を同じように出来るかは別の話だけども、今以上に、この中区で子育てをしやすいようにしていこうと思ったら、いろんな制度も大事ですけれども、やはり親子の精神的な負担をどうしてやるかっていうことがね、大事じゃないかと思います。

○森田座長　ありがとうございます。

ごもっともなご意見だと思います。次に、お話が関連するかどうか分かりませんが、先ほどもあててしまって申し訳ないですけど、梶原さんが広報紙の画像などをつけてご意見をいただいているのでちょっと聞いてみたいと思うのですが、よろしいですか。

○梶原構成員　私が挙げさせていただいたのは、パソコンや電子機器に不慣れな方もいらっしゃる。

また、友だち登録してもらえなかったりダウンロードしてくれなかったりすることもあるのかなと思うので、LINE アカウントではなくて、広報紙の方であれば、全世帯に配布されていますので、スマホとかアプリよりは、情報が行き渡る媒体だと思います。

広報紙に相談先の情報を載せるだけではなくて、子育て支援課だよりが掲載されています。経費の関係もあるかとは思いますが、折込チラシのようにすることで、目に留まるきっかけになればいいんじゃないかな

というふうに思いました。
　以上です。

○森田座長　なるほどありがとうございます。
　他はどうでしょう。
　はいどうぞ。

○中辻構成員　先ほどの話に戻るかなと思いますが、就学前の子どもさんについては、こども園が中区にもたくさんでき、通っていただいていますので、地域や、そこからの情報が子育て支援課の方にも入るかなと思います。
　それから小学生に関しては、学校の方からいろんな情報が入る、また情報提供するという形になっているかなと思います。しかし、私が一つ思っていますのが、他府県からね、引越しされて、身寄りって言いますか、お知り合いがいない方で、なかなか親御さんが地域に馴染めない場合には、子どもさんも同じく地域の中に溶け込めないという事例も抱えております。私も子育て支援にはずっと関わっていまして、中区の地域でも、サークルへの参加や、小学校、中学校への訪問もしていますが、なかなか今は子どもさんも対応が難しいです。こういう言い方をしたらおかしいですけどね。
　親御さんはお仕事をされているので、なかなか子どもさんに目がいかない部分もあるかなと思います。
　そのため、地域ではなるべく子どもさんに登校時や下校時に頑張ったねとか、いろいろと言いながら声をかけるようにしています。今、中区ではどうにか子どもが健やかに成長してほしいなとの思いがあり、皆さんの力を借りて何か一つでも楽しいことができたら嬉しいなと思っております。

○澤本構成員　澤本です。
　いろいろな相談窓口とかもあるんですけれども、例えば、登校拒否の場合なんですが、子どもが中学生ぐらいになるとお母さんもイライラしたりして、家庭内での暴力までいくと相談があるのですが、子どもさんが低学年だったりすると、お母さんはそんなに困ってないと言います。
　しかし、私達から見たら、それは困った状況だと思うのですが、保護者自身はあまり困ってないという家庭があります。そういう家庭に対して、学校からもお母さんは困っていないから、窓口をお知らせすることが難しい状況だったりするので、そういう人たちを助けるための何か手段があるといいなと私は今思っているんですけれども。
　やはり、保護者が困ったと言わない限り相談に繋ぐことができないため、こぼれていくところに入るでのはないかなと心配しています。

○森田座長　そうですね。
　そのあたり非常に難しいところですけど、逆に言うとあまりこちらから押し付けがましくなってしまわないようにしないと。重要なのはそういう方々がおられるようなイベントなりサイトがあると、比較的プッシュしやすいのでそういうところをご存じだったらヒントになるので、教えてほしいと思うのですけど・・・。

ありがとうございます。

○太田構成員　太田です。

私は地域で子ども食堂をしているのですが、LINE 公式アカウントを作って食材の配布であるとか、ひとり親世帯さん向けや、一般世帯向けにいろんな形で情報発信しています。

LINE 公式アカウントってすごく便利で、一斉に発信もできるし、個別のやりとりも管理者の私以外は見ることができない形で、そのままの画面でやりとりができます。

食材を取りに来てもらうタイミングをきっかけに、時間はかかりますが顔が見える関係ができて少しずつ話していくようになって、やっと実はこうですとか、ちょっと小学生のときに繋がったお母さんでもいざ中学校に入ったときに、この受験って今どうなっていますかとか、子どもが反抗期で悩んでいますとか、だんだん子どもさんの年代に応じて悩みが変わってくるので、小さいうちから大きくなるまで、一本の窓口で見ていきたいなっていうのをすごく感じるようになって、LINE 公式を使う、対面どっちも必要かなっていうのはすごく感じています。先日子育てひろばの方で、お母さんが子どもさんの困った行動について悩んでいたのですが、今はこうやって子育てひろばに言っていく所があるけど、この子が小学校入ったときに私は、どこへ相談に行ったらいいっていうのをはっきり言われたお母さんがいて、そういう時には区役所の子育て支援課は、実は 18 歳までやっているよとか伝えることが出来ます。でも一般の方には周知されていなくて、こんな相談をわざわざ言いに行くのも恥ずかしいと思う人もいるので、普通の日常会話の中でちょっと悩みが相談できる関係性が繋げられたらいいなって思うのと、あと情報発信として、例えばお店、子ども食堂も最近になって図書館の方でパネル展示をしていただけるようになったのですが、必ず皆さんから話が出るのが今後は、ダイソーであったりセリアであったり、その他 100 均とかに子育ての情報とか冊子とか置いてもらえないかなとか、私も行くたびにすごく思います。そういうお店にあまり行かないですっていう人はあまりいらっしゃらないので、そういう商業の方と結びついていろんなところに気軽に情報が得られるというか、そういうのをやっぱり中区からぜひイベントも含めて作っていけたらいいなっていうのと、あと、コロナ前は中区役所でもハロウィーンイベントをやっていたのですが、そういう気軽に訪れる窓口っていうところで繋がるきっかけとして、是非いろんなイベントを皆さんと手を取り合いながらやっていけたらいいなっていうのを考えています。

○森田座長　子ども食堂は私も詳しくはないのですが、非常に重要なチャンネルの一つだと考えていまして、今おっしゃいましたように、例えば子ども食堂に来られた人でも最初から来られていきなり悩みを相談できる人っていうのはいらっしゃらないのかなと思うので、それと同じようなことを考えると、結局 Zoom や LINE なども、最初からいきなり相談できる人って、しかも顔も見ないで、シビアな質問ができる人ってなかなかいらっしゃらないと思います。

時間はかかるかなと思うんですけど、コミュニケーションレベルを上げる活動を地道にやっていくなどすれば、それだけじゃなくてもよいとは思うんですけど、そういうチャンネルを活用しながらやっていけると少しは良くなっていくのかなと今お話を聞いて思いました。

何かその点についてご意見はありますか。

なければ時間もございますので最後の Q2－2 の方に移ります。

どのようなテーマで子育て講座等をすれば、保護者同士や保護者と子育て支援者の関係を結びつけるきっかけになると考えますか。について、ちょっと今のコミュニケーションの話も結構関連しているかと思いますので、関連したテーマとしてお話を伺いたいと思います。

学生さんの話でいうと、現在子育て講座に来られていない人を対象にテーマを設定したらいいんじゃないかとか、テーマを絞ったほうがいいんじゃないかなどございます。

何かご発言はございますでしょうか。

はい、よろしくお願いします。

○今西構成員　以前高齢者の支援をしていたときに、相談にはたくさん来てほしいけども、来る人は、みんな広報紙を見ていたりとか、もっと積極的にされる方は毎回来られたりしますが、どうしても来ない方とかっていうのは知らないこともあるかも知れないです。今までは、そこに声が届かないことが多かったので、さきほど太田さんがおっしゃっていただいた 100 均とか、誰もが利用するドラッグストアとか、スーパーを利用して相談の窓口を作ったりとかすると、来てくださることもあるんですけど、それでも来ないときもあって、そういうときは牛乳屋さんとかの企業さんを呼んでイベントをすると、ちょっと人が増えたりしました。

そのときにアンケートをとって、一体何に困っているのかとか、どんなことをして欲しいのか等のアンケートが取れると、今度はその声が聞けるので、それに沿って次やっていくっていうことができたことがありました。

私は電話での自殺の相談窓口をしているのですが、精神的に追い詰められると、相談をしたくてもできなかったり、考えが止まっちゃったりするけども、やっぱり負の感情って人に言うのはすごく勇気がいるので、匿名性が高いとちょっと言ってみようかなと思うので、SNS とかチャットで今、若い人たちとかも言いやすかったりとか、誰が言っているかわからなければ、相談がしやすいところがあるので、そういうのが使えると虐待対応等に活かせて、話ができたりとかするのかなって感じています。

○森田座長　ありがとうございます。

最後におっしゃった匿名性という観点は今まであまり出てきていなかった気がしますけど、考えてみれば重要なポイントで、シビアな内容の場合、誰にも知られず相談がしたいと思われる方もいるのかなと。そういう意味で言うと、電話なんですかね。ネットワークでも個人が特定されないようなものを使って顔などを隠すことが出来るのであれば対応できるのかもしれませんけど、そういう匿名性の確保みたいなもの、当然内容的にはそういう配慮をされていると思いますが、実際に相談するときもそのような点の配慮っていうのはあってもいいのかなと思いました。

ありがとうございます。

他に何かありませんか。

なければ学生さんで、まだ発言をいただけていない堤さん、いかがでしょうか。

○堤構成員　堤です。

これまでのお話を伺っている中で、子育て講座のテーマに関して、私が考えたことといたしましては、講座

の方に来るっていうことは、絶対に親が子どもを連れてくるような構成だというふうに私は考えています。親御さんが子どもを連れてくるってなると子どもが楽しめれば、その親御さんの方がよし行こうっていうふうに思うハードルが低くなって、講座にも来てもらえるのかなと思っています。

また、講座って言われるとちょっと行きにくいかもしれないんですけど、イベントとか体験型で学ぶことができるのであれば、すごく行きやすいのかなというふうに考えました。

そのため、実際に防災のイベントであったりとか、地域のお祭りであったりとか、そういうところにはたくさんの親御さんたちが来られていて、その中でたくさんの学びブースであったり、体験をしてもらう講座みたいなところもたくさんあって、そういうのを通じて子育て支援課の人と講座に来られた人がお話することや、来られた保護者さん同士がお話する機会が出来る等のイベントであったり、活動を通してお話する機会っていうのが、顔と顔が見える関係で、人間関係を築くことが出来るため、一歩大きく踏み出しやすいのかなというふうに思いました。

○森田座長　ありがとうございます。

それでは続けて溝下さんお願いできますか。

○溝下構成員　溝下です。

私も先ほど、堤さんがおっしゃったように親御さんが子育て講座に来るときは、お子さんも一緒に来ると考えています。堤さんは親や子が一緒に講座を受けることを前提としていたのですが、私は内容によってはお子さんがいたら何か一緒に話しづらいとか、じっくり話す時間が作れないとかそういうこともあると思いますので、例えば図書館でやっている読み聞かせのイベントと一緒にお子さんはちょっとそこで読み聞かせしているから、お母さんたちはこっちで講座をしましょうかみたいな、子ども向けのイベントと大人のイベントを一緒に行う方法もあるんじゃないかなと思いました。

○森田座長　今のやり方はなかなかいいアイディアですね。

お子さんなんかは読み聞かせしていると、大人しく聞いていますしね。そういうのとあわせて、子育ての講座のテーマとしてはどんなのがいいのか、それは別に読み聞かせと連動するものであってもいいと思うのですが・・・。

今、学生さんの意見を少しお聞きしたのですが、他に皆さんからのご意見いかがでしょうか。

どうぞ。

○松居構成員　ここでの講座のテーマというのは、いわゆる子育てしている方とか、子育てにお悩みの方を対象にイメージしているのかなと思うのですが。

少し効き目が違うことを言ってしまうのですが、私は市民活動というところをテーマにした活動をしているので、子育て支援に関して協力しますっていう方を見つけるような講座であるとか、講座という言い方がいいのかわからないのですが、どうしても子ども食堂の運営にも携わっているので、そういった形で繋がっていると、そばに住んでいる方で、あそこの家はお子さんが多い家庭で、お母さんの家事が出来ていないため、そ

の子どもに店からお弁当を持っていった方がいいよって、よくそんなことを知っているなっていうふうに感じたことがありました。

地域の中には一定子育てっていうところについて、何か自分にできることがあったらって思っている方が、思わぬところにいらっしゃるんじゃないかなというふうな気もしてはいるんですね。

地域の民生委員さんにもいらっしゃったりするんですけども、そういったところに所属こそしてないけども、「きっかけがあれば」「自分でもできることがあれば」など、例えば子ども食堂の始め方などを教えてくれるのであればやってもいいかなというふうに、実はぼんやり思っているとか、協力者の方と出会っていけるような、何か講座なのか、きっかけというか、みたいなものを作っていけないのかなということを思いました。

○森田座長　どっちかというとマッチングみたいな感じですかね、きっかけを作る。

それを導いてくれるような人に繋げていくことですかね。

○松居構成員　そうですね。

先ほどの周知というところについても、対象者の方に直接訴えかけようとするのとあわせて、そういったことに意識を持っている方が増えていき、その人たちが地域の中のいろんなことを汲み取って広めるっていうのも、もしかすると効果的な側面なのかなと思いながら、そういう人をどんどん増やしていけるような取り組みができたらいいなというふうに思います。

○森田座長　ありがとうございます。

何か、今のご意見ほかに何かございませんでしょうか。

はいどうぞ。

○竹井構成員　深井プラザでも、政策部会というのをやっていまして、子育て応援ということをさせてもらっていたんですけど、政策部会とかでそういう子育てに関する講習とか、こういう部会っていうのが今までやってなかったんですね。

今お話をお聞きして、子育てで悩まれている方の相談を、駅ナカで募集させていただいて、講師の先生お呼びして子育て講座を行ってもいいなっていうふうには思っているので、そういう機会を少しでも作っていけたらと思います。

○森田座長　先ほどの、ご発言もそうですし、なかなか積極的にいろいろ関わっていただけそうなので、ぜひ中区の皆さんと一緒にやれるような方法を検討いただければ。

他にご意見は？

○巽構成員　巽です。

子育て講座をいろんなところでお話させてもらってて、ここのうきうきルームでも実は年に 1 回、いろんな人と子育てしようってことでさせてもらうんですけど、ちょっと二点ほど言います。

一つは子育て講座のときにお子さんと離れてというご意見もあってそれがいい人もいれば、一緒にいることで安心する方もいるので、受け入れるのはひろばなので、お子さんともごちゃごちゃになりながら講座やっているんですけど、それはそれで、お母さんとお子さんが一緒に居るのが安心な方はその方が講座に参加しやすいっていう面もあるので両方選べるようになっているといいなと思うのと、お母さんばっかりちょっと今話が中心になっているので、お父さんも参加できるような講座だったらいいなというのが一点。

もう一つは、子育て中の人向けの講座だからといって子育てのテーマじゃなくてもいいと思っています。

私自身、実はジェンダーのことを知ったのは地元の託児付きの公民館講座だったんですね。私のようなママ友とかが苦手な子育て中の親もいるので、その子どもを通した繋がりじゃなくって、一大人として、子どもと離れて繋がりが持てる場っていうのを求めてらっしゃる方もいると思うので、両方の子育て中の悩みっていうのもあるし、一大人としての自覚が持てるっていうのもすごく重要だと思うんで、そういった機会を講座で作ることが必要だと思います。そのため、託児が必要になってきますけども、託児があるから行くっていう人もいて、私はそういう考えだったんですけど、そういう人もいるとは思うのでそういった人向けの大人向けの講座をやるっていうのも一ついいかなとも思います。そうすると、本当に子育て中の人だけじゃなくて、いろんな方と知り合う機会になりますし、その中で子育て支援をしてらっしゃる方と繋がれるきっかけにもなるかもしれないです。

託児に関してですが、例えば子育て支援のＮＰＯの方に頼むと、そこでお子さんを預けたことをきっかけに、今度は、ひろばに行ったり、子ども食堂に行ったりとか、いろんな施設を知ったりというきっかけにもなるかもしれません。

そのため、テーマをあまり子育てに絞らなくてもいいんじゃないかなと思いますし、やり方次第なのかなというふうに思っています。

以上です。

○森田座長　ありがとうございます。

ご経験を踏まえていろいろ教えていただきました。

良い意見だなと思いました。

何か今の点についてどうでしょうか。

はいどうぞ。

○田重田構成員　質問の内容が、どんな講座をすれば、保護者同士や保護者と子育て支援者の関係が結びつくのかっていう質問だったので考えたんですけど、講座という言葉から一方的にお話を聞くことを想像していたので、講座で保護者同士が結びつくのかな？という疑問があって、どっちかというとそのコミュニティを作るっていうところを支援した方がいいんじゃないかなって一つ思いました。

意見にも書いてあるのですが、自助会的な同じような悩みを持つ人たちが、自由にお喋りができるような場所作りや、そういうところに行くのはハードルが高いっていう人には子育てのイベント等ですよね。

例えば、マルシェみたいなイベントで子育ての用品グッズとか離乳食の試食会みたいなような形でイベントを開いて、そこに支援者の人たちも来て気軽に話ができるようなそういうイベントを通じて繋がるような形

だと、参加するハードルも低いのかなっていうふうには思いました。
　以上です。

○森田座長　今ご発言ございましたように、他の方のご意見もそうだったのですが、基本的には何か行動すれば解決するっていう話ではないんだろうなと皆さんも感じていると思いますが、内容も重要かとは思うんですけど、場の作り方ですとか、そこでどういうお話、お話の仕方も偉い人がきて話すっていうのもあるかもしれないですが、皆さんがディスカッションしたり、いろいろな人のお話を聞いたり等やり方っていうのも可能性がある気がいたしました。
　それでは時間も差し迫ってきたんですが、最後に何かご発言されたい方は、全体を通してでもいいですけども、いらっしゃればお聞きして、特になければクロージングに移りたいと思いますが、いかがでしょうか。
　よろしくお願いします。

○金澤構成員　この案件とはちょっとそれるかもわかりませんけれども、この中区は昔からいろんな行事やイベントが多い区だと思うんです。
　特にこの地域では秋祭りや、これから中区でも今月末には区民フェスタというのがあるのですが、私自身この地域で生まれ育ったんですけれど、昔は深井駅がないときから、周りが田畑で数件しか家がなかった感じだったんですけれども、それがいろんな形で開発されて今の状況になったんです。
　先ほど皆さんからお話が出てるように、やはり人との繋がりっていうのは、そういったイベントが人とのコミュニケーションの場としてですね、一番効果があって子育てに繋がっていくと思います。そのため、我々、自治連合会としてもですね、昔から隣のおっちゃんおばちゃんに注意されたり怒られたりしましたが、最近では怒られたら何言ってんだっていうふうに逆に怒られるような状況の中ではですね、本当に子どもさんも親御さんもなかなか人同士のコミュニケーションを作りにくくなっているので、やりにくいんじゃないかなと思うんですけれども、自治連合会としても自治会に加入してもらって、イベントに積極的に参加をしてもらいたいですね。
　最近では、2 週間前にこの地域の祭りがあったんですけれども、子どもを乳母車に乗せて、だんじりの後をついて走ったりしている人もいました。
　これも 4 年ぶりに大々的に行った祭りだったんですけれども、4 年前に比べれば若干規模や人数が少ないかなというふうに思いました。
　やはりそうなってくると、本当にこの祭りっていうのは、他の町を色々行きますからね、私も驚いたんですけども、そこの野々宮神社で声をかけられて、いろいろ話していたら中学校の同級生だっていう 60 年ぶりに見たような状態です。当然各地域に行っても、昔から知っているけれども、祭りでしか会わない人たちも多かったりします。こういう場で会ってお話ができれば、また、こっちからも声がかけやすくなり、自治会があるから入らないかと声もかけやすくなり、人と人とを繋げることができます。
　今回の案件とまた別やとは思うんですけれども、親同士の繋がりが一番大事じゃないかなというふうに思っています。
　以上です。

○森田座長　ありがとうございます。

　それでは金澤構成員に締めていただきましたので、この辺でご意見はよろしいでしょうか。何かご発言がありますでしょうか。

　本日は、構成員の皆様からいろいろご意見いただきましてありがとうございました。

　事務局におかれましては、皆様からいただいた様々なご意見を今後の区政運営に活かしていってくださいますようお願いいたします。

　これで本日の議案は全て終了いたしました。

　本日の議案あるいはそれ以外でも何かご意見ご質問はありますでしょうか。

　議案内容に対する意見や何か不明な点ございましたら、遠慮なく事務局へ申し出ていただきたいと思います。

　それでは、司会にお返しします。

5　閉会

○司会（東）　閉会に当たりまして、中区長よりご挨拶を申し上げます。

○中区長　皆さん本当に夜の遅い時間まで活発なご意見交換、ありがとうございました。

　今、聞かせていただきまして皆さんから様々な立場や経験から、本当にすべてが貴重なご意見をいただけました。役所というところは、人や予算、物理的なスペース等、いろんな制約がございます。その中で私ども職員日夜努力をやっているのですが、何とか今日いただいた貴重なご意見、一つでも、実現できるように、この後いただいたご意見を整理させていただいて、一つでも実現できるように検討を進めていきたいと思います。

　また、ここにいらっしゃる構成員の皆さんで日頃からお付き合いのある方が多数いらっしゃいますので、改めてご相談させていただくこともあると思いますので、引き続き皆さんのご支援のほどよろしくお願いいたします。

　本日はどうもありがとうございました。

○司会（東）　それでは、以上をもちまして、令和 5 年度第 1 回堺市中区政策会議を閉会させていただきます。

　構成員の皆様におかれましては、会議の開催にあたり、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。